

## 教えて、田沼さん！「進修館のあんなこと、こんなこと」最終回



毎号、進修館建設時に担当をしていた元宮代町役場職員・田沼繁雄さんにお話を伺っている本コーナー。最終回は、当時現場監理をしていた、元象設計集団・西尾貞臣さんにお話を伺いました。

西尾さんとお会いしたのは、愛知県小牧市にある「アトリエ修羅」。温かみのある木の扉を入ると、まるで図書館のようにたくさんの本に囲まれた空間が広がっていました。大きな木のテーブルをはさんで、西尾さんはゆっくりと進修館建設時のお話をしてくださいました。

西尾さんが進修館の建設に関わっていたころ、都内から宮代町に電車で向かうと、姫宮駅周辺に新しい戸建ての住宅があり、



愛知県にあるアトリエ修羅の入り口。建物からは、西尾さんのあたたかいお人柄がにじみ出ているかのようです。

その他はのどかな田園風景が広がっていたそうです。杉戸駅（現在の東武動物公園駅）には広大な車両スペースがあって、長い橋を渡って宮代町へ行く。行くと何だか駅裏のような景色が広がっていた、という印象とのことでした。その頃はちょうど東武動物公園ができるという時期で、駅から東武動物公園へ向かうメインストリートがまっすぐ通っていましたが、周辺には空き地がたくさんあり、進修館の南側は何もなくまっさらな風景だったそうです。当時の宮代町は、人口もあまり多くなかったからか、町の人も役場の人も「宮代愛」にあふれている、と西尾さんは感じたとのことでした。

進修館が建設されている場所の北側（現在の芝生広場付近）には町役場と消防署がありました。当時は役場の建物があまり大きくなかったこともあって、会議室を議会でも使ったりするなど、うまくやりくりしていたそうです。そんな中で、役場の別館として、進修館の建設が始まりました。大きな建物が出来上がっていく現場の隣で役場の職員が仕事をしているので「進修館が出来上がっていく様子を役場の方たちも一緒に見守ってくれている」と西尾さんは感じたそうです。



宮代町内にあった書店で購入した漢和辞典は、田沼さんとの出会いの思い出のひとつ。書店でばったり会ってお互い驚いたそう。

現場に掛かりきりになっていた西尾さんは、役場の宿直室を借りて寝泊まりし、週のうち現場に5日、東京の事務所に週1日行き、その時に自宅に寄る、という生活だったとのこと。そのころ、杉戸駅から進修館の道すがらに書店があり、外で食事した後「何かいい本はないかな」とよく立ち寄っていたのだそうです。そんな折に、その書店で田沼さんにばったり会い「こんなところで会うなんて」とお互い驚いたそうです。「この本を買ったとき、田沼さんといっしょだったことをよく覚えているんですよ。」と言って、西尾さんは一冊の漢和辞典を見せてくださいました。また、借りていた宿直室が取り壊されることになり、ちょうど自宅の改築工事のため和戸に一軒家を借りて仮住まいをしていた田沼さん宅に「少しだけ居候させてもらった」なんていうエピソードもあるそうです。

進修館の建設をきっかけに出会った西尾さんと田沼さん。お2人それぞれからお話を伺ってみて、象設計集団の建築に対する熱量と、当時の宮代の人々の地元への愛情の大きさを感じました。こうした思いが、これからの進修館に受け継がれていくといいですね。



古利根川沿いにある喫茶店「チロル」。とても居心地が良く、田沼さんと行くことが弾んだそうです。

### 特別編 アトリエ修羅 西尾貞臣さんにお会いしてきました！

## ちょこっとコラム

このコーナーは、読者の皆さまに楽しんでいただける様々な情報をお届けしています。

### ◆ L'AUTRE MAISON 西ノ洞・川生さんとケイコ・ボルジェソンさんがご来館！



世界約20カ国で活動を続けるジャズピアニスト・ケイコさんのライブは必聴です！

にしほら かわおい

象設計集団との共同体「TeamZOO」として、今帰仁村中央公民館などの設計に携わったアトリエ・モビルの丸山欣也氏。その丸山氏が設計した建築が群馬県館林市にあります。その名は「西ノ洞」。カジュアルなフレンチレストラン「西ノ洞」は進修館を思わせるような佇まいで、家具も進修館と同じ坂本和正氏によるもの。進修館では昨年の秋頃から西ノ洞と交流しており、お互い行き来する関係です。その西ノ洞のオーナー川生りえ子さんが、先日、ご友人のケイコ・ボルジェソンさんと一緒にご来館されました。ケイコ・ボルジェソンさんといえば、日本が誇る世界的なカリスマ・ジャズピアニスト。まさか進修館にお越しいただけるとは…感激です！

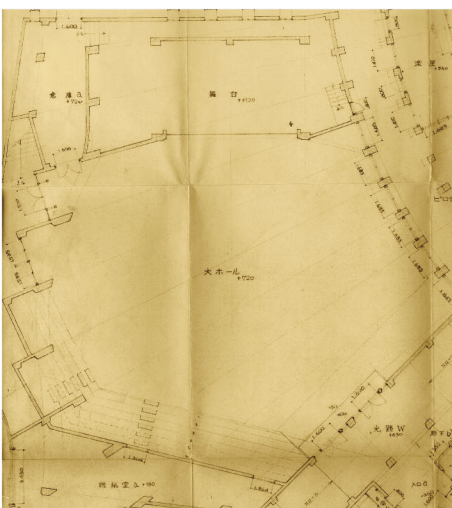
「西ノ洞は私の音楽活動の出発点」と仰るケイコさんは、西ノ洞と同じような雰囲気をもつ進修館に興味を持たれ、この度、川生さんのご案内の元ご来館されました。館内を散策し、2フロビーのピアノに触れ、そして一言。「いつがいい？」なんと進修館でジャズライブを開催して下さることになりました。残念ながら、4月はMCAの指定管理は終了しているため進修館の主催共催事業とはなりません、進修館でライブを開催して下さるのは本当に嬉しいです！詳細が決まったら館内にポスターの掲示やチラシが配架されると思いますので、ご興味ある方はチェックしてくださいね。また、3月31日までは進修館でも前売チケットを販売しますので、是非ご購入ください！

## 「外」から再発見、進修館の魅力」最終回

このコーナーは、進修館でアルバイトしている日本工業大学の学生（地元は福島県）が、町外から宮代町に越してきて感じた、進修館の魅力について語るコーナーです。



大ホールの梁は入れ方にも工夫が施され、下から見るとマス目状になっています。これは宮代町の特産品でもある巨峰のドウロを再現しているのだとか。



こちらは進修館の設計図面。広いところだと20m以上もスパンが飛んでいます。（一般的な建築物のスパンは十数m前後）

みなさん、こんにちは！日本工業大学建築学科1年の浦山です。みなさんは2024年度をいかがお過ごしでしたでしょうか？僕は進修館に携わったこの1年間で、建築にまつわる様々なことを学ばせていただきました！僕はもともと地元の工業高校でも建築を学んでいたのですがRC造（鉄筋コンクリート造）やS造（鉄骨造）に関することは全然分かりませんでした。しかしこの進修館でアルバイトをする中で、大学の授業内で座学的に得た知識を実際に観たり触れたりしながら体で学ぶことができ、人に寄り添ったデザインに関することや現実的で安全な構造体の大きさなどを知ることが出来ました。という事で今回、僕が紹介する魅力の場所は大ホールです！

町のイベントなどでも使われるこの大ホールですが、実は細かなところで様々な工夫が凝らされています。大ホールはその名の通り、とても大きな空間を作り出してい

ます。この大きな空間を支えるにはそれ相応の大きな梁と柱が必要になってきます。するとホール内から観た時に圧迫感や躯体の重い感じが出てきてしまい、結果的にそこにいる人に対して使いづらさや緊張感を与えてしまいます。しかし進修館の大ホールは梁を柔らかく湾曲させることでコンクリート造特有の硬さや冷たさ、重さを感じないように工夫されています。こういった細かく施された工夫が大ホール、ひいては進修館全体が長らく町に愛され、大事に使われてきた歴史にもつながっていると感じています！

今回は大ホールの魅力を「外」からお伝えさせていただきました。みなさんも進修館に来た時にはぜひ、館内にある小さく細かな工夫やそこに込められた宮代愛を見つけてみてください！象設計集団による世界的意匠、この町が誇る「世界の中心」である「進修館」を、もっともっと好きになっていただけたら幸いです。

※「スパンが飛ぶ」  
建築用語で「建物を支える柱と柱の間隔が離れること」を「スパンが飛ぶ」といいます。

### ■ 進修館からのお知らせ「進修館グッズ&今帰仁村グッズ販売は、3月8日（土）まで！」

一部の商品は売り切れとなるなど、大好評を得ている「今帰仁村グッズ」。MCAの指定管理撤退に伴い、3月8日（土）21時で販売を終了します。（LINEでは2月28日までとお知らせしましたが、好評につき延長します！）気になる方は、売り切れになる前にボランティア室にお越しくださいね！

